

## [アジア生産性機構(APO)]

『エコプロダクツ・ディレクトリー2008』発行  
環境への配慮を事業創出や企業発展の好機へ

## 700の製品とサービスを紹介

国際機関アジア生産性機構(APO)は、環境に配慮したアジアの製品などを集めた「エコプロダクツ・ディレクトリー2008」を発行した。APOは「アジアにおけるサプライチェーンのグリーン化」を掲げ、生産性向上と環境保全の両立を目指して1994年から日本政府の特別拠出金で「緑の生産性(GP)」事業を実施しており、ディレクトリーの発行はその中核である。本書の製作にも、GP事業を効果的に実施するために主要日本企業など50社が参加して設置された「緑の生産性諮問委員会」が全面的に協力している。

このディレクトリーには、例えば製造時の環境負荷が低い、有害物質を含まない、リサイクルが容易などの特徴を持つ人に優しい材料である「エコマテリアル」や、冷蔵庫の省エネルギー化を実現する真空断熱材のように、完成品に組み込まれることで環境負荷を削減する高性能な部品である「エココンポーネンツ」、設計段階から環境に配慮した環境負荷低減型の製品である「エコプロダクツ」に加え、10人で1台の車を共有するといった環境負荷を下げるための製品の使用方法や仕組みである「エコサービス」まで、約700種類の製品・サービスが掲載されている。これらの中には、国際標準化機構(ISO)による認証を受けていたり、米国環境保護庁(EPA)の「国際エナジースタープログラム」などの環境ラベルを取得しているもの、あるいはグリーン購入ネットワーク(GPN)のデータベースである「エコ商品ねっと」に登録されているものに加え、ディレクトリー作業部会により検



洞爺湖サミットが開かれた今年は、日本語版も作成された

討・検証されたものも含まれる。04年以来、このディレクトリーで取り上げられた製品・サービスの総数は2,500にのぼる。

これまでは英語版だけが発行されてきたが、京都議定書の第一約束期間の開始年であり北海道洞爺湖サミットでも地球温暖化対策などが議論された08年は、日本語版も作成された。

## 加盟国をリレーし国際展も開催

APOではさらに、環境に配慮した製品・サービスの総合展示会である「エコプロダクツ国際展」も04年から毎年、加盟各国をリレーしながら開催してきた。今年ベトナムのハノイで開かれた第4回国際展には、現地企業に加え、トヨタや東芝、ブリヂストンなど約30社の日本企業が参加した。第5回目は09年3月に、「持続可能な生産、消費、未来」をテーマにマニラで開催される予定。環境配慮型製品やサービスの普及・啓発、環境事業の市場拡大への契機となることが期待されているディレクトリーの発行と国際展を同機構の中核事業と位置づけるAPO竹中繁雄事務総長は、「これらの事業を契機にアジア各国が環境ビジネスチャンスのポテンシャルに気付き、ひいては域内の低炭素社会の構築へと発展してほしい」と話している。

香典返しの  
新しいカタチ

故 桔梗政之さん  
(享年86歳)

困っている人をほっておけない性格だった政之さん。

生前に心を痛めていた「犯罪被害者」の支援に使ってほしいと、ご遺族が香典の一部を日本財団「夢の貯金箱」に寄付してくださいました。会葬者の方々からも「形式的なモノよりも、政之さんらしい」と大いに賛同をいただけたそうです。



ご寄付いただいた香典は犯罪被害者やハンセン病回復者の支援など社会貢献活動に100%全額を活用しています。

相談電話:03-6229-5111

ゆめちよ

で 検索